

北海道浮魚ニュース

平成12(2000)年度19号 (通巻 NO.89)

2000年10月2日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

平成12年度オホーツク海サンマ漁況見通し

9月28日に釧路、網走、稚内水産試験場および北海道区水産研究所が共同で平成12年度の「オホーツク海サンマ漁況見通し」を作成し、発表しましたので、お知らせします。

【漁況見通し】

来遊資源量は昨年よりも多いであろう

魚体組成は中型・小型魚主体で、昨年より小型魚の比率が高いであろう

表面水温の高温傾向が解消され次第、漁場が形成されるであろう

1 太平洋の漁獲量とオホーツク海への移入条件について

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型(体長24-28cm)・小型(20-23cm)魚で、この群は南部千島太平洋側水域へ接岸したものの一部が、7月から8月にオホーツク海へ移動・回遊するものと推定されます(図1)。

太平洋での8月下旬までの漁獲量は昨年よりも多いと見込まれ、また漁獲物は中型魚が主体であることから判断すると、南部千島太平洋側水域に北上した**中型・小型魚の来遊量は昨年よりも多い**と推測されます。

太平洋からオホーツク海への回遊経路にあたる南部千島沖の表面水温は、昨年と同様に高め傾向で推移していることから、**太平洋からオホーツク海へのサンマの移入条件としては好適**と考えられます。

2 オホーツク海サンマ漁期前調査結果(浮魚ニュース平成12年度17号参照)

9月中旬に実施したオホーツク海サンマ漁期前調査の結果、雄武沖~ウトロ沖の表面水温は15~20度の範囲にあり、これは**この海域の9月の表面水温の過去18年間の平均値と比較して高く**、最近では1998年、1999年並でした。

夜間、停船・点灯しての目視調査では、全目視調査29地点中、数十尾以上の群が認められた地点数は12地点、うち数百尾の群が目視されたのが1地点で、小群(1t未満の漁獲が見込まれるもの)以上の群は認められませんでした。

同時に行った漁獲調査の結果、流し網によって漁獲されたサンマの体長組成は20～35cmの幅を持ち、28cm、32cmに組成の峰がみられました。また、たも網によって漁獲されたサンマの体長組成は9～33cmで9cm、21cm、27cmに組成の峰がみられました。これを昨年と比較すると、**体長24cm以下の個体の比率が高く、体長30cm以上の比率が低くなっていました。**

3 オホーツク海の漁況見通し

以上の情報から推測すると、太平洋からの移入条件は良好で、漁期全体としてのオホーツク海沿岸域へのサンマ来遊量は、**昨年より多くなるものと見込まれます。**サンマの魚体組成は前年同様、**中型・小型魚主体**ですが、9月中旬の調査結果からみて**昨年よりも小型魚の比率が高く、大型魚は少ないと考えられます。**9月中旬時点でのオホーツク海の表面水温は、この時期のサンマ分布水温としては高めで、オホーツク海沿岸域への来遊現況は思わしくありませんが、**今後の海況変化によって急激に水温が低下する可能性があり、その場合は直ちに漁場形成されるものと思われ**ます。

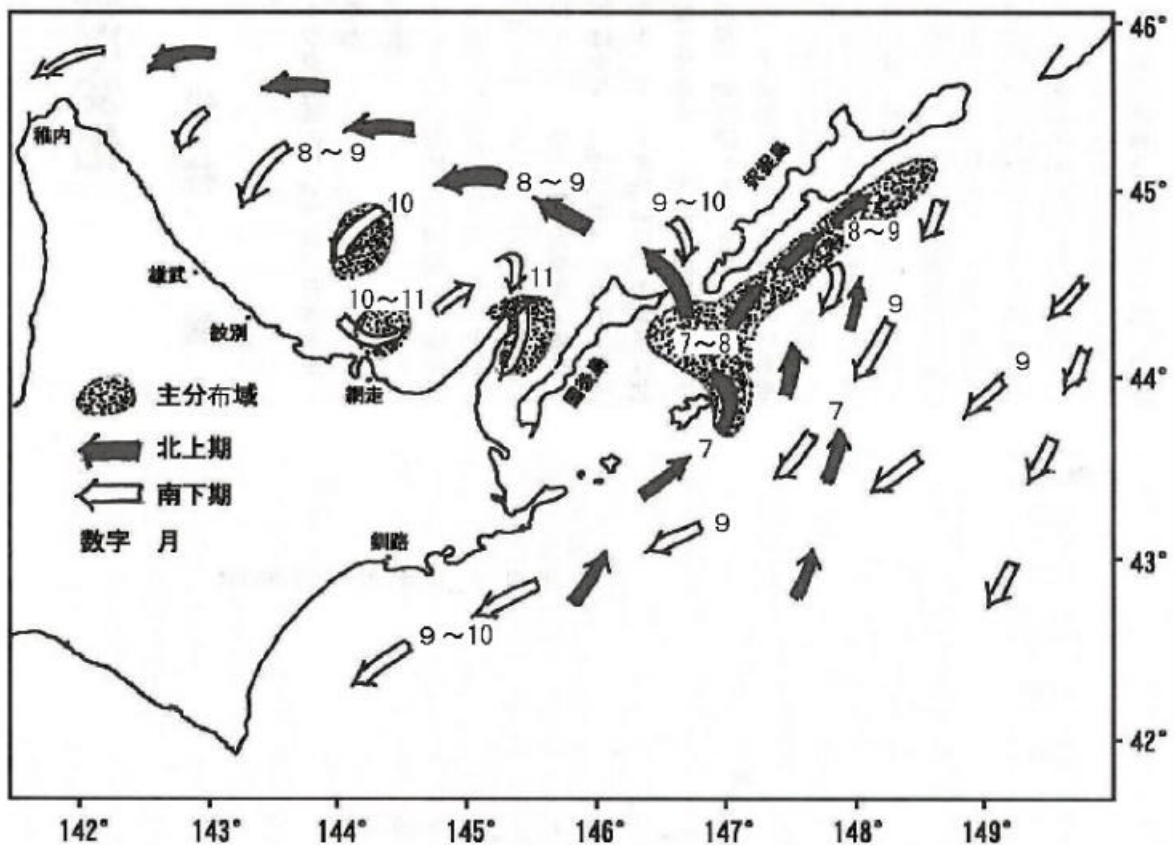


図1 サンマの回遊想定図

提供：小林氏（漁業情報サービスセンター）

（文責：釧路水試資源管理部）
直通電話 0154-23-6222